

令和３年度第１回区政モニタ一会議議事録

令和３年７月１０日（土）午前１０時から正午
北区役所別館 研修室

政策経営部広報課

第1回区政モニター会議議事録

- 1 日 時 令和3年7月10日（土） 午前10時から
- 2 場 所 北区役所別館2階研修室
- 3 テーマ 北区の防災について
- 4 出席者 防災・危機管理課長、防災・危機管理主査、
広報課長、広報主査、広報課職員、
区政モニター 24名

1. 開 会

◎広報課長

皆さん、おはようございます。

それでは、定刻になりましたので、令和3年度第1回区政モニター会議を始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます、広報課長でございます。この4月から務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今年度初めての会議ということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、今が旬という言い方がいいのか分かりませんが、北区の防災ということをテーマに、皆様にご意見をいただきたいというふうに考えてございます。

それでは、本日の出席者をご紹介します。

防災・危機管理課長、お願いします。

◎防災・危機管理課長

よろしくお願いいたします。

◎広報課長

また、後方におりますけれども、防災・危機管理主査でございます。

◎防災・危機管理主査

防災・危機管理主査でございます。よろしくお願いいたします。

◎広報課長

また、入り口の付近におりますのが、広報課の事務局でございます。今年度より担当が代わりました。3人で担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料を確認させていただきます。

まず初めに、「令和3年度第1回区政モニター会議の次第」でございます。続きまして、本日の資料となるパワーポイントの資料で、「北区の防災について」。三つ目が、「北区防災地図」でございます。またもう一つが、「東京都北区洪水ハザードマップ」。そして、「北区ニュース」のこれは昨年のもことになりますが、令和2年7月20日の水害特集号。また、「東京くらし防災」という冊子です。そして「チラシ」ですけれども、令和3年5月20日から、避難指示で必ず避難というようなもの。あ

とは、模造紙を各班に1枚。またA4のコピー用紙、サインペンをお一人一つずつ。また付箋のほうを4色ご用意させていただいてございます。不足、ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、本日の進行方法について、ご説明をさせていただきます。

まず、防災・危機管理課長から15分程度になりますけれども、「北区の防災について」ということでご説明をさせていただきます。説明終了後、各グループでグループワークをしていただきます。グループワーク中に質問等ございましたら、その都度職員のほうにお声がけをいただければと思います。グループワーク後は、グループ内で出た意見を各グループでおおむね3分程度で発表していただきます。発表は、自分のグループでこのような意見が出ましたという内容で結構です。発表者の方は、グループ内で出た意見をまとめて、3分間で発表をお願いいたします。なお、事前に各グループの進行役、発表者を決めさせていただいております。役割を指名された方で、どうしてもできないという方がもしいらっしゃいましたら、グループ内で調整をお願いいたします。

本日のモニター会議終了後に議事録を作成いたします。議事録は北区ホームページなどで公開をさせていただきます。議事録に載る部分は、開会、説明、発表の部分となります。各グループでの話合いの内容は載せません。会議中の発言者名については、匿名とさせていただきます。

また、記録用に、北区の記録用とホームページ掲載用ということで、会議の様子の写真撮影もさせていただきます。ホームページ記載時は、皆様のお顔ははっきり分からないように、ご配慮をさせていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

進行方法についてのご案内は以上でございます。

それでは、次第の2の説明のほうに移らせていただきます。防災・危機管理課長、どうぞよろしくお願いいたします。

2 . 説 明

◎防災・危機管理課長

皆様、改めまして、本日は、よろしくお願いいたします。

皆さん、お暑い中こういった場にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。空調を効かせているのですが、換気もしています。そういったことで水分補給を行っていただきながら、耳を傾けていただければと思います。

(スライド1、2参照)

では、私のほうから北区の防災対策で今回主に水害のことと、少し備蓄のことに触れる形でお話をさせていただきたいと思います。

(スライド3参照)

まず、水害のお話でございまして、荒川の話をしてしましょう。北区には四つの河川があります。水害の話ですとその四つの河川と、あともう一つ北区というのは京浜東北線に沿って崖がありますよね。高低差があって、それが北区の大きな特徴なのですが、

やっぱりそうすると崖崩れの心配があります。さらに、大雨のもたらす災害としては、例えば下水が溢れてしまったりというものもありますが、今回は川の氾濫、特に荒川の話を中心にしていきたいかなと思っています。

荒川の概要については、スライドに記載のとおりです。口頭での説明は省略します。

また後で改めて言いますけれど、荒川というのはとても大きな河川で、一たび氾濫すると本当に東京の終わりみたいな洪水が起きると言われています。

ただ、なかなか氾濫しません。もちろん氾濫しそうになる危険はあるわけですので、氾濫すると大変なことになりますから、しっかり堤防を造るなど、そういった対策もかなり進められている河川でございます。

(スライド4参照)

荒川が氾濫したらということですが、北区は、先ほども申し上げましたが、低地部のところはほとんど水につかるような形になります。お配りしているハザードマップにつきましては、討議のときにでもご覧いただければと思うんですが、荒川の河川に近いほうでは、洪水しますと水がすごい勢いで出てくるわけです。3階にいれば大丈夫かななんて思っていらっしゃる方もいるかもしれないのですが、家ごと流されるといったことも起こり得ます。

(スライド5参照)

あと、もちろん水の高さもかなりの高さまで来ます。そして、この(浸水継続時間を示している)地図の赤い色の部分ですが、ここが水深50センチになるまで2週間以上かかると言われています。2週間で引くわけじゃないです。2週間以上かかると言われています。50センチだったら何とか生活できるかなと思われるかもしれませんが、恐らく水道、電気、ガスは全然駄目だと思います。トイレもかなり難しいんじゃないかなと思います。トイレをしても流れないような状況になるのかなと思います。

(スライド6参照)

次に、石神井川についてです。荒川に比べれば随分小さな河川でございます。ただ、中小河川の中ではまあまあ大きい川なんですけど、こちらの場合は、平成に入ってから何度か氾濫をしてございまして、かなり強い雨が降ると、短時間のうちに氾濫してしまうことがあるといった特徴があります。

(スライド7参照)

荒川はそういうこと(短時間のうちに氾濫してしまうこと)がまずないのかなと考えていますが、石神井川はそういうことがある。ただ、小さい河川ですから、洪水の範囲も限られています。これはハザードマップを今作成中でございまして、地図を皆さんにお示しできていないのですが、こちらの資料(スライド)でご確認いただければと思います。氾濫のそんなに広い範囲ではないということ。そして、水の高さも荒川ほど高くはないですし、家を押して流すようなそんなすごい水の流れも起きないのかなと言われています。

(スライド8参照)

あと、浸水継続時間ですが、荒川の場合は2週間以上引かないかもとさっき申し上げましたが、石神井川の場合は12時間未満なので、例えば2階、3階に行っていたいて何とか耐えるということもできるかと思います。その辺が違うかなと思っています。

ます。

(スライド9 参照)

荒川と石神井川で、違いをそれぞれまとめてみました。あらかじめ予測はできるのですが、一たび氾濫したらものすごい被害が起きそうな荒川。一方、石神井川は、被害の程度は比較的に荒川に比べれば少ないけれどもなかなか予測が難しく、短時間で氾濫に至ってしまう恐れがあるということ。また、新河岸川、隅田川も荒川と並行して走っているのですが、基本氾濫のしやすさ、しにくさでいうと、荒川と同等なのかなと思っています。荒川ともある部分でつながっている、荒川に備えた形で対応していれば、隅田川、新河岸川についても、ある程度同様の対処できるのかなというふうに考えてございます。

(スライド10 参照)

次に土砂災害がありまして、大雨が降ると崖が突然崩れ落ちるということですが、なかなか崖というのも、予測が難しいといえれば難しいんです。荒川と違って、比較的に雨が降ってから短時間で被害の危険が及ぶと言われております。特にいつときの大雨ではなくて、今回の熱海の被害もそうなんです、数日間ずっと少しずつ雨が降ってくると、土が水を含んでくるなんてことも言われています。そういったことでいうと、ある程度、早急に対応が必要な場合があり、つまり、先ほどの荒川と石神井川のくくりでいうと、石神井川と同じグループに入るのかなと区では考えました。

(スライド11 参照)

土砂災害警戒区域。ちょっと細かい地図ですが、これもっと大きい地図も区で配っております。該当の地域にお住まいの方には、個別にお配りしております。もし興味のある方は、インターネットでご確認いただくとか、あとは区のほうにお取り寄せいただくとかで、お願いします。

(スライド12 参照)

ただ、石神井川でも土砂災害でもそうですが、突然には起こりません。地震は突然に起こりますけれど、水害はある程度天候とかによって、若干ではあっても、災害発生までには時間があります。

(スライド13 参照)

次に、避難のお話ですが、この辺の言葉って難しいとよく言われます。レベル1から5。5段階に分かれていてレベル5、いよいよ危ないかなという感覚を持つ方もいらっしゃるようですが、もうレベル5は半分駄目というか、もう災害が起きているような状況もレベル5になります。なので、皆さんにはとにかくレベル4の段階で避難、最低でもいただくということが大事です。

レベル3も、相当にまずい状況です。高齢者等避難なんて言葉になっていますが、かなり水害の発生のおそれがある高い状況になっています。

逆にレベル3とレベル2の間に、随分と私は差があるのかなという感じを抱いています。レベル2だと注意で大丈夫ですが、レベル3になると本当に避難という状況です。ただ、レベル3になれば避難を開始すればいいのかという点についてはいろいろでございまして、後で言いますけれど、例えば荒川でまだ水位は上がっていないけれど、すごい台風が来るという予測があったときには、まだ荒川の水位的にはレベル2

であっても、「高台に避難してください」なんて呼びかけをする場合がありますので、そんなことを心得ていただければと思います。

北区では、とにかく避難の大変さでいうと、やっぱり荒川なんですよ。低地部にお住まいの方が、この中でも半分ぐらいいらっしゃいますよね。北区35万人のうち約20万人の方が低地部にお住まいです。そういった方が安全な高台に避難していただくためには、かなり前もって避難を呼びかける必要があると区でも思っております。

(スライド14参照)

それで、台風19号の経験を受けまして、区ではこんな方針を設けました。

一番大きなところでいえば、自宅にとどまらず、できるだけ遠くの高台に逃げましょうというところです。2週間以上水が浸かってしまうような低地部のエリア。たしかに3階、4階に行けば命は助かるかもしれませんが。緊急の際には行ってください。ただ、そういったところでの生活は本当に過酷だと思います。ぜひぜひ、早めに高台のほうに逃げていただければと思います。

(スライド15参照)

避難の方法でございますが、一番区で奨励しているのは、縁故避難といいまして、もう北区に限りませんので、例えば立川のお友達のところに行かれるとか、国立の息子さんのところにいらっしゃるとか、そういう形で結構です。そういう形が一番いいと思います。高台にある区の施設・学校等を精いっぱい避難場所として開けて、20万人の方が避難いただけるよう、皆様の安全を確保したいと思っておりますが、やはりスペースは厳しいです。スペースが厳しくなくとも、やはり本当に知らない人同士が、体育館とか、同じお部屋で共に生活するのは本当に大変です。台風が通過して、「荒川が氾濫しなくてよかったね、家に戻ろうよ」というぐらいの1泊2日かもしれませんが、本当に混乱すると思います。なので、できれば皆さんがある程度、自由に生活することができる友人、知人のお宅とかに避難いただくのがいいのかなと思っています。その場所が必ず水害の被害がない場所かというのも確認した上で、避難をお願いします。

(スライド16参照)

これは、防災関係ではいろんなところで使っているイラストですが、垂直避難。なかなか水が引かない状況ですと、生活が過酷なものになりますよといったようなイラストでございます。

(スライド17・18参照)

北区の避難の方法ですが、二つのパターンで考えています。一つが、荒川が氾濫した場合。もう一つは、石神井川もしくは土砂災害が起きそうな場合、そういったことでございます。

例えば小さい台風が来る。そうした場合は、荒川はまず氾濫しないだろうということとは分かります。そうした際に石神井川の氾濫が懸念されることから、皆さんを低地部から高台に避難いただくというのは、大きな負担を強いることになります。あとはゲリラ豪雨とかがやってきて、石神井川があふれそうだよと言っているときに、わざわざ距離のある高台に避難場所を開設して、誘導するというのもかえって身の危険になると思います。そういった中では、ある程度ご自宅からの近くに避難場所をつくる

のがいいのかなと区では思っています。崩れる心配のある崖地につきましても、その近くに避難場所を開設する考えです。

一方、荒川のパターンですが、区の高台にある学校を精いっぱい開けます。できるだけ早く開けたいと思います。まだ、台風の接近とかで、できれば風雨が強くない段階。雨が降っていないような段階で避難場所ができればいいかなと思っています。いろんなところから情報を取って、的確に判断できるようにしたいと思います。

いろんなパターンをつくっている区もあるようですが、何パターンもつくると皆さん混乱すると思っています。なので、2パターンに北区はまとめました。

(スライド19参照)

今回ちょっと皆さんに聞きたいところでございまして、荒川等の氾濫が懸念される場合、皆さんの心配事、令和元年度に基本方針を策定して、地域の皆さんにいろいろ、いろいろ「荒川の氾濫が来そうなときには、高台に避難しましょうよ」ということを呼びかけてきました。ただ、皆さんからもさまざま課題が寄せられています。まず、「避難場所、そんなになんかだろ。本当に入れてくれるのかよ」という話ですとか、あとは「行ったって、食べ物はあるのか」と言われました。正直、あまりないです。地震のときは、北区全体で首都直下地震が起きても、大体8万人ぐらいの方が被災されると思っています。けど、荒川の氾濫の場合は20万人ですよ。しかも、低地部の方が高台のほうにみんな来るということになると、高台だけで20万人分用意するというのはなかなか難しいです。

ただ、水害の場合は予測ができます。地震のときには、まず机の下に入って、揺れが収まってからも「火事が来た。ちょっと急いで逃げなきゃ」ということもあると思いますが、水害というのはある程度予測ができますから、特に荒川の場合はそれなりに事前に予測ができますから、できれば「台風通過ぐらいまでどのくらいの日数避難場所にいるかと。食べ物を自分で持っていこう。区の備蓄だってそんなになんか」というぐらいで、対応していただければありがたいかなと思っています。

あと、区民の方の気持ちとしては、やっぱり「氾濫はないでしょう」というある意味楽観視してしまいがちです。例えば、昨年度、九州地方に大きな台風が来て、朝鮮半島に大きな被害をもたらしたなんていうのを覚えていらっしゃるでしょうか。そのときに気象庁などは、今まで経験をしたことのないような雨量があるといったような、そんな報道をいっぱいしました。行政も避難指示とか避難勧告とか、いろいろ出していたのですが、避難した人はそんなになんかいなかったということです。

次です。あとタイムラインといいまして、「いつ逃げたらいいの」というタイミングがよく分からない、また、「いつ避難所が開設されるのか」なんていうのもよく分からない。たしかに気象は微妙に状況状況で変わります。早朝に接近する台風なのか、夜に接近する台風なのか、そういうことでも区の対応はいろいろ変わってくところがあります、どうしても。そういうところをもっと分かりやすく、私たちもいろいろ示していく必要があるのかなと考えています。

あと、避難経路ですね。「低地から高台へ上ってくる道は、そんなになんかよ」「いっぺんにわっと人が押し寄せたら、上って行けないよ」。そんな声もいただいているところです。ただ、それでも何とかしたいなという思いがありまして、今日は

その辺りのことをちょっと皆さんにご意見いただければというのが、まず一つ目のテーマでございます。

（スライド20・21・22参照）

そして、二つ目が備蓄のことでございます。区では、いろいろ備蓄しています。ということでの一覧です。備蓄倉庫が12か所にございまして、それとまた、避難所となる学校にもあります。初めに学校にあるものを使っていただいて、避難生活が長引く場合には、倉庫のほうからよいしょ、よいしょと持って行って、また使ってください。3日ぐらい何とかしのげば、東京都とか、国とかいろいろ支援も届くだろうというところで、3日ぐらいは何とか区のほうで、かつ、あとは皆さんの備蓄とかそういったことも合わせて、何とか頑張っていけたらなという思いでございます。飲料水の確保というのは非常に大事かと思えます。いろんな取組をやっておりますので紹介させていただきます。

ただ、やはり行政の備蓄というのは、やっぱり限界がありますし、皆さんの備蓄だってもちろん限界はあると思います。ただ、3日分ぐらいは何とかしていただきたいなという思いでございます。食料品、特にアレルギー対応は、申し訳ないのですが、区の避難所でも何とかいろいろ頑張っていますけど、やっぱり十分かと言われれば、そうじゃないところもあります。身の安全を最優先としながらも、できるだけ避難場所には特に水害のときですね。そういったときには、ぜひぜひ、（ご自身で必要な物資を）持って行っていただきたいなと思います。

（スライド23参照）

あと、食料や水以外の備蓄も大事です。特に薬。あと、生理用品なんていうのもよく言われています。区のほうでもそれなりに持っていますけれど、やはり本当に皆さんが多数被災された場合、皆さんの分が十分にあるかというと、そういう状況ではありません。

あと、トイレというのが結構、難題でございまして、食べ物というのは結構皆さんの頭にはあるのですが、食べたらやっぱり出ちゃうんですね。大地震発生時に、皆さんのおうちは、もう耐震設計ばっちり大丈夫だけど、下水が流れないということは結構あると考えられています。なのでそのときには、トイレに袋をかぶせて、そこで排せついただいて、それをごみでためておいて、そうすれば何日かすればだんだん、だんだん復旧してきますから、そういったところでいうと携帯トイレも非常に大事でございます。

ローリングストック、食べ物なんていうのはあれですけど、備蓄は意識していなくても、例えばパックのご飯とか、ビスケットとか、多少賞味期限の長いもの、そういったものをいろいろ用意しておいていただければ、それが備蓄になるのかなと思っております。

（スライド24参照）

その他に関する区の取組でございますが、メールシステム、一回聞きます。登録している方は、どれぐらいいらっしゃるでしょうか。やっぱりちょっと少ないんですね、スマホとか、携帯電話、ほとんどの方がお持ちかと思えます。不慣れな方もいらっしゃることは分かりますが、ぜひぜひ、登録をお願いします。

(スライド25・26・27参照)

あと、街路消火器の設置も行っています。感震ブレーカー、転倒防止もなかなかやろうやろうと思っていてできない方が、結構いらっしゃいます。なかなか体力的にご自身では取り付けが難しいという方、北区ではそういった方については、支援も行っています。

(スライド28・29参照)

あと、防災センター。皆さん、行ったことがありますでしょうか。いろんな取組をやっていますので、ぜひぜひお越しいただければと思います。

(スライド30参照)

最後にメッセージでございますが、後で読んでおいていただければありがたいかなと思います。

(スライド31参照)

グループ討議のテーマでございますが、荒川の氾濫について、どういうところが問題があるのかなというところを、ご意見いただければと思います。あと、また備蓄の話です。「最低3日間の備蓄を」なんてよく言われているのですが、実際できていないという方が、数多くいらっしゃるとも聞いております。どうしたら進むかを考えていただけるとありがたいかなと思っています。

長くなりましたが、私からは以上です。

3 . 討 議

◎広報課長

防災・危機管理課長、ありがとうございます。

それでは、グループ討議のほうに移りたいと思いますけれども、水害ということで、先週は熱海のほうで大変な災害がございましたし、先日は島根や広島のほう、また今日は九州のほうでということで、非常にリアリティのあることが各地区で起きているなというところでございます。そういったこともございますので、ぜひ、北区で万が一災害が起きたときということで、討議のほうをお願いしたいというふうに思います。

それでは、11時10分ぐらいまで、約40分の時間になりますが、ぜひお話し合いをしていただきたいと思います。

防災・危機管理課長。テーマは二つ、できればやっていただいたほうがいいんですよ。

◎防災・危機管理課長

お任せします。

◎広報課長

時間も限られておりますので一つでも構いませんし、二つのテーマについて、もしお時間があれば、皆様のほうで話をしていただければというふうに思います。

それでは、11時10分ぐらいになりましたらば、お声がけをさせていただきますので、ぜひ、忌憚のない意見を出し合っていただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いします。

◎区政モニター

討議に入る前に、今の講演の中で質問があるのですが、１点ですが、よろしいでしょうか。

◎広報課長

どうぞ。

◎区政モニター

北区民のうちの２０万人が低地帯にお住まいだということで、水害の心配が一番あると思うのですが、２０万人の避難に必要だということなのに、高台に避難できる人数が５万人しかいないということで、小学校や中学校が避難場所になっていますが、ここに書かれている小中学校の全部が避難場所になっているのかどうか。もっとこれを広げるゆとりというか余裕があるのかどうか。２０万人に近づけるにはどうしたらいいのか。５万人じゃ圧倒的に足りないと思うので、そのところをお伺いしたいのですが。

◎防災・危機管理課長

そうですね。この５万人というのは、どういう人数割りをしているかという、一人がここに寝っ転がった場合というような計算をしているんです。それで学校の面積で割ると５万人ということなんです。

今コロナで、できるだけ密を避けたら、そういったこともあるので、私たちいろいろ場所を見つけないかと思っています。区の小学校以外に、例えば都立の高校が高台にありますよね。そういったところをいろいろ、いろいろ交渉はしています。もっとたくさん広げていきたいなというふうに思っていますし、例えば区のふれあい館とかそういったものもありますので、有効に活用する。

ただ、区のふれあい館にわっと人が来るとそれは本当につらいので、まずは学校に行ってください、ある程度一般の方と生活が難しい方はふれあい館に行ってくださいとか、そういったようなやり方をしながら、何とか５万人をもっともっと増やすやり方を考えていきます。ぜひ、避難のときにはあれですが、寝っ転がって５万人なんです。命からがら逃げてきた人を、じゃあ５万人になったら、「もう次のあなたは入れません」ということはしないと思います。膝抱えて詰めてでも、一晩台風が過ぎれば一応何とかなるからということで、そういった避難のご理解を求めていくということも同時にしていこうかなと思っていますので、お願いします。

◎広報課長

皆さん、もし質問がありましたら、職員のほうが回っておりますので、そのときにお声がけをいただければと思います。

４． 発 表

◎広報課長

それでは、皆様、活発なご意見が出ていたこととは思いますが、時間となりました。この後は発表の時間に移りたいと思います。

お近くにホワイトボードがございますので、そちらのほうに模造紙なりを貼ってい

ただいて、発表をしていただければと思います。

発表の順番ですが、大体1班からとか、6班からということがよくあると思うのですが、今年度第1回目ということで、恐縮ですが、1班から時計回りに、ぐるりと1、3、5、6、4、2という順番で発表をいただければと思います。

それでは、1班の方、3分程度でご説明のほうをお願いいたします。

◎区政モニター（1班）

1班のほうですが、1班は荒川の氾濫におけるケースにおいて、低地域に住んでいる人が速やかに安全に避難するにはどうしたらいいのかというところで、話し合いをしました。

第一に、自分たちがどういったところに住んでいるか。ハザードマップなどで避難しなければいけない場所に住んでいるのかどうかを、確認するということが第一です。

それと、雨が降っているときは、気象庁やいろんなところから出てきます情報をテレビやラジオ、あるいはスマホなどを通じて、聞いて確認していくということが必要です。そうした情報を常に気にしていかなければなりません。区のほうにもいろんな氾濫に関する情報を早めに発信していただければと思います。

続きまして、避難所ですけれども、避難所は区で早めに開設していただいて、まだ開設していないからと避難に来た人が帰されるようなことがないように、受け入れてもらえるように早めに開設していただきたいと思います。そして、避難所のほうの受入人数もなるべく多く入れるように確保していただきたいと思います。

それと、各家庭、地域であらかじめ避難場所を決めておいて、避難経路も決めて、それで実際に歩いてみて、どのくらいの時間で、どういうふうに避難できるかも完璧にしたほうがいいと思います。こちらにありますのは、堀船地域の方が滝野川第三小学校へ行く避難経路の確認を防災ハイキングという形で実施したときの記事です。

それと、ふだんですが、自治会や町会でそういった避難判断について避難することを話題にしていくということも大事で、いつも近所でもコミュニケーションをよくして、「一緒に逃げましょうね」とか、そういうことを話題にしていくのも必要なことだと思います。

そして、避難が遅れた場合に、高い建物に垂直避難ということですが、北区にあまり会社関係の高い建物というのがなくて、マンションとか集合住宅の高い建物になってしまいましたが、もともと住んでいる方がいっぱいいらっしゃいますし、その建物の低層階に住んでいる方まで上のほうに避難されるでしょうから、そういったところへ戸建ての住宅の人が避難するというのは難しいでしょうから、多少なりとも高齢者とか動けないような方に関しては、どうにか入れていただけるようなことを区のほうでお願いをして少しでも可能なようにしていただければと思います。

あと、常日頃から避難するときに持ち出すものを準備して、家族の中で誰でもが持ち出せるように、ここにあるというのを確認して、いざというときに持っていけるようにしていければと思います。歩いていく避難所ですから、持てる量は限られてしまいますので、実際に持てる量、家族分ですと3食分、3日という結構ありますけども、3日分持っていければいいとは思いますが。それと荒川や江戸川など東京にある河川が洪水になりますと、250万が避難するわけですから、親類縁者のところに避難

という難しいとは思いますが、洪水の心配のない地域に新しく知人や親しい人をつくるというのも一つの方法かなと思います。

以上で、1班の発表を終わります。

◎広報課長

ありがとうございました。

それでは、続いて3班の方、よろしくお願いいたします

◎区政モニター（3班）

3班のほうでは、いわゆる低地に住む方が3名と、高台に住まわれる方が1名いらっしゃって、今回そもそも何で避難しないんだろうということで、2年前の大雨で岩淵水門が閉まったときに、何で避難しなかったのかな。逆に高台に住まれている方が見た避難所の様子とかを、一旦左半分に挙げてみました。

何で避難しなかったのかなというところで、やっぱり「まだ大丈夫」だったり、あとは「国が何とかしてくれる」とか、「水害が起きても国が何とかしてくれるだろう」と。その原因としては、経験がないから。

あとは、「堤防が崩れたらしょうがないよね」という諦めが大前提に心の中にあったんだろうなというのがあります。

実際、避難所がどうなっていたかというところ、「最初に来た人は鍵がかかって入れなかったんですよ」とか、「実際避難したんだけど、いっぱい入れなかった」とか、あとはそもそも避難場所が分からなかったところがありました。

あとは、そこに至るまでの道のりですね。何で避難しなかったかというところ、避難所が分かっていたとしても、高台への道のりは大変だった。あとは夜だったので、避難するのがちょっと怖いなという気持ちがあったというところで、避難所に避難しなければいけないと思ったとしても、避難する心の悩みがありました。

それに加えて、区の情報発信が届いていなかったのではないかなという声がありました。これは事前の情報というのがあるのですが、事前の情報でいえば高台に避難という考え方というのが伝わってきていなかったというのが、まずあります。

あとは、実際「もう雨が降り出しました、荒川が危ないです」とNHKでもやっていますけど、実際北区がどうなのかという情報が、区からの情報が届いていなかった。防災無線が何か言っているんだけど、もう雨で全然聞こえなくて、逆に不安をあおられてしまった。

実際、防災無線の放送履歴がホームページにあったのですが、そこは全然更新されていなくて、何の意味もないホームページだったといったところが、区からの情報発信が届いていなかったというところで、2年前を皆さん頭の中に浮かべたときの課題として挙がりました。

では、どうしたらみんな避難につながるんだろうなというところで、皆さんの心の中の経験がないから分からないとか、「もう堤防が決壊したらしょうがないよね」という諦めは、究極しょうがない気がします。ただ、実際ここに集まられている方とかというのは、割と意識が高くて、もともと情報を知っている方もほとんどだったと思うのですが、その情報をできる限り身の回りだけでも伝えるということで、一人でも多くの方に知っていただくしかないのかなと。諦めとか過信というのは、なかなか根

底を覆すことはできないので、身の回りから少しずつ伝えていく。その中で、もちろん町会を使って、町会でリハーサルをする。ただ、町会でリハーサルとかをしたとしても、参加できない人は必ずそこに発生しますし、そこは民生委員の方がカバーすると。それでもやっぱりこぼれてしまうので、そこは少しずつ広まることを期待するというのが現実なのかなというところです。

ただ一方で、心の問題と別で区からの情報発信という意味では、避難所の体制がやっぱり、いざ避難したときに鍵がかかっていたんで、ここが避難所なのかなという不安を感じてしまう人もいたりするのが現状だと思いますし、避難所がいっぱいで入れなかったというのが2年前に実際あったようなので、その辺りは区側の体制として少し考えていただくと、せっかく避難した人に対してのケアにつながるのではないかなと思っております。

あとは区からの情報発信というところで、もう防災無線は何を言っているのか聞けないなら、究極サイレンでもいいから切迫感を与えてほしいということです。あとは、もちろんサイレンだけだとそれもそれで不安ですから、とにかく正確な情報発信を届ける手段が、今北区にはちょっと乏しいのかなと。ホームページも充実していないのでその辺り、ホームページも見られない方もいらっしゃいますので、本当にそこは、まだ結論は出ないまま迎えてしまったのですが、まずは区からの情報発信を、ぜひ期待したいと思っております。

以上になります。ありがとうございます。

◎広報課長

3班の方、ありがとうございました。

続きまして、5班、お願いいたします。

◎区政モニター（5班）

グループ5でございます。メンバーは、それぞれ申し上げますと東十条地区と王子、赤羽、それから田端。いずれも低地でございます、実際にこの表題のとおり、氾濫の懸念があるということになると、もう逃げるしかない。ただその前提として、どういうレベルにあるのかの情報を、3のレベルなのか、4のレベルなのかということとを事前に知りたいというような意見が出ました。

それに付随して、今、天気予報というのはNHKをはじめとして毎日出されておりますけども、例えば洪水情報のような形で懸念がされたときには、もう日々の情報をいただくとありがたい。それが、例えば荒川の平常の水位はこうだけど、今の状態ではこんなに高くなっていると、そういう日々の情報で知らしめてくれると、非常に判断がしやすいのではないかと。それは意見として出ました。

実際にそういう形で、災害が発生してどうするか、もう逃げるしかないわけですし、では、どういう形で逃げるかという、一つは高台に逃げる。私個人的には、東十条ですが、飛鳥山はちょっと遠いのですが、飛鳥山に逃げようかと家庭では話をしていたことがあるのですが、ただちょっと距離があるんですね。ずっと上って歩いていくのに、子供じゃとてもできませんから。いずれにしても、そういう高いところに逃げざるを得ない。

もう一つは、王子地区に住んでいるメンバーさんの中で、実際にしっかりしたビル

に逃げる必要はないけれど、そこでじっとしているしかない。逆に考えると、そういう事前の予防として、知り合いをつくって、遠隔地に逃げなくても、逆に「助けてちょうだい」「逃げさせてちょうだいよ」と事前に予防としてやっておくと、それはとてもいいんじゃないかなという意見が出ました。

それからもう一つは、そういう判断の懸念があったときに、命を救う手だてとして例えばボートは難しいですけども、ゴムの浮き輪のようなものを用意しておくのも面白いんじゃないかと。つまり、今回の熱海のように土砂や流木が流れてくる。それはあんまりないかもしれませんが、一重に荒川が決壊したときには、水が上ってくると思うんですね。そうした場合には、何か浮くようなものを瞬間的に膨らませて逃げられる考えもあるのではないかとという考えです。

あとは、実際に現場を見に行っては危険だよということで、危ないときには河川に近寄って、水位を見するのはやめてくれということをニュースで言われていますけども、事前にそういう目盛りのようなもので見ることはできるわけですね。そういったものを情報としてたくさん作って、いろんな箇所に作ってもらってあると助かるのではないかと。そういう意見でございます。

あとは、特には以上でございまして、むしろ予防を事前にやりたいということが多くの意見でありました。

以上でございます。

◎広報課長

ありがとうございました。

続きまして、それでは6班の方、お願いいたします。

◎区政モニター（6班）

6班の発表をさせていただきます。速やかに安全な対策を取るには、自助ということでテーマにさせていただきました。

まず、北区の人は、押しなべて災害に対する意識が非常に低いような気がするんですね。私は北区で生まれ育っているのですが、子供の頃もう70年近く前ですけども、床下浸水は1回だけ経験しました。それ以降、床下浸水がないんですね。

北区というか、東京はそれだけ守られているという意識が強過ぎて、あまり真剣になれないところがあるんじゃないかなと思います。そうは言いましても、最近の天候の異常さから考えますと、これは他人事ではないという意識を早く持たなくてはいけないのかなというふうな気がします。

それで、まずどうするか。まず、この場合は北区でしょうけども、避難場所が、いざそうなったときに、避難場所が矢印ではこっちの方向と書いてあるのですが、具体的にどこまで行けばいいのかが分かっていないのが実情だと思います。

それから、避難した後は、どうなのか。その辺も不透明で、その不安があると思います。

それから、避難する場所の都の施設とか、民間のマンションとか、それから公園とか、そういうところに取りあえず逃げて、本当に決壊して長期にわたる場合、先ほども出ましたが、水とか、食べ物とか、寝るところとかがどの程度できているのかということが、まだはっきりしていないのがちょっと不安だと思います。

それから、自助と書いてありますけども、そういう公的なものに頼ることと、それから自分での防災グッズとか、食料とかを日常的に用意しておいて、いざというときにはリュック、防災リュックみたいなもので避難する。そういうことも自分の責任としてやるべきではないかと。その公的なものと私的なものと両方あって、災害に取り組むのがいいのかなと。大体そんなところですか。

それから、ちょっと申し遅れましたけど、リードする人、例えばこの場合は町会などが一つの単位になると思うのですが、そういう防災の担当の人が町会でそれぞれおりますが、そういう人たちとの連携もちゃんとしておいて、いざというときに速やかにそのようにする必要がありますと思います。

それから、先ほど申しましたけれども、施設の充実。公園によって、そういうものが管理しているところと、ただの公園のところといろいろありますので、そういうところも計画管理をしていただければいいのではないかと思います。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

それでは、次に4班の方、お願いいたします。

◎区政モニター（4班）

4班です。いろんな意見を出していく中で整理したものがこちらになります。

まず、そもそも低地に20万人住んでいるというところが問題じゃないかということと、これが今20万人に備えようとしているのが30万人に増えたら大変だろうということもあって、まず、まちづくりとか、そもそも自分の家が、自分が住むときにどういうところに住みたいかを考えたほうがいいんじゃないかなというところから始めてみました。なので、低地の人口をこれ以上増やさないほうがいいんじゃないかとか、増やす場合には、例えば備蓄とか、避難をちゃんと考えた家にしなさいということとを北区のほうで建築指導とかするとか、そういうことも考えられますし、最近ハザードマップを不動産会社がちゃんと示さないといけないということが義務化をされたと思うのですが、私たちの班4人で、低地の方が2名で、高台の方が2名いて、「ハザードマップを見ました」という人と、「見ませんでした。仕事の職場に近いところにしました」ということがあったので、どこに住むのか、どういう町にしていこうかというところが一番にあるんだろうなということから始めました。

その上で、住んでいる場所がどんな場所なのか。ハザードマップもいろいろ災害によってあると思うのですが、その地震のハザードマップ、水害のハザードマップ、崖崩れのハザードマップを重ねてみてどういう場所に自分が住んでいるのかということを知ることとか、災害に応じた避難所がどこにあるのかということを知ることが重要だろうということです。

その次に、もう少し広げてみて、自治会の中で自治会としてどういう備蓄をしているのか、取組をしているのかとか、あと北区のニュースにもありましたけど、防災セミナーの講師の派遣というのがあったので、そういうのを活用してみたほうがいいんじゃないかとか、そういった意見がありました。

また、自治会の中で、どういった人が避難に大変なのかを知っておくことも重要だろうと。名簿もあるみたいなので知っておくことが重要だろうということになりました。

た。

その状況を知った上で備えるということで、個人として避難訓練、高台のルートを自分で確認したりとか、あと薬、食料、トイレットペーパーみたいな日常品とかをきちんと多めに置いておくとか、自治会のほうでも避難訓練をみんなで行ったりとか、どういう人は助けが必要で、呼びかけることをしないといけないかを把握しておくというのが要るんじゃないかということがありました。

北区の場合、高台と低地ときっちり分かれてしまっているの、高台の自治会と低地の自治体と協力することで、例えば備蓄をしておくとか、水害があったときは自治会に頼れるとか、そういうのがあると、もしかしたらスムーズな避難とか、支援が得やすいのかなという回答がありました。

あと、空き家とか民泊みたいなものが結構あると思うので、そういうところも避難所に変えて使えるようにリスト化しておくとか、そういうことがあるのかなというところが備えの部分です。

実際に水害が来た場合には、ちょっとここから割と難しいとなったのですが、自治会とか近所とか避難の呼びかけが必要ですし、そもそも分かりやすい言葉でどのくらい避難が必要なのか。今のレベル1から5みたいな、もう少し分かりやすくなりましたけど、避難勧告、避難指示の違いというのは、やっぱり考えてみないと分からないですし、子供にも分からないですし、そういうのがあるので、やっぱり分かりやすい言葉で情報が届くことが大切だよなという意見がたくさん出ました。

水害が起こると結構どうしようもないところもあるのですが、避難所の中でもスムーズに安否確認ができるとか、避難所の中でも障害があつてとか、足が悪くてとか、小さい子がいてとか、アレルギーがあつてとか、そういう配慮が必要な人がいると思うので、そういう人をちゃんとみんな認識して、把握して、そういう人にちゃんと配慮がいくようにというようなことが重要かなという意見がありました。

全体的にこういう発表でした。

◎広報課長

どうもありがとうございました。

それでは最後ですが、2班の方、よろしくお願いいたします。

◎区政モニター（2班）

2班の発表をさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

我が班が最後になりますけども、全て皆さん立派なご発表があつたのですが、最後に進行役をはじめ、女性のお二人の方も町会の役員等を日頃やっていて、とても話の内容がすばらしかったんです。私だけがそういう意識が低いもので、まとめが十分できなくて、大変申し訳なかったです。

取りあえず、発表させていただきますが、まずはやっぱり防災という観点でいうと、自分の命は自分で守るということで、まずはいろんな地域で知っておくことや、町会とか、マンションとか、そういった会合等でしっかりいろんな情報を受け止めておくことが大事なんだなという話、進行させていただきました。

やっぱり情報の把握ということで、自分の地域がどういうところなのかということ、それからどこに避難したらいいのかということ、まず基本としてはしっかり把握し

ておこなきゃいけないにもかかわらず、十分それが伝わっているか、把握できているかという点では問題があるのではないのかなと。2班の方については、高台で安心なところにいらっしゃる方がお一人で、低地でお住まいの方が3名ということで、マンションの方と、戸建ての方という条件の違いもいろいろありました。

それから、町会で先駆的に常に活動されていて、この間の水害のときも避難所の開設のお知らせが来たらすぐに飛んで行って、いろんな準備をして動いたという人のお話もありましたので、そういう点ではやはり経験しているというのは、すごく大事なことだなということ。

やっぱり情報の収集でいえば、北区にはケーブルテレビとかというのもあるしニュースでもありますけど、テレビで出てくるニュースは漠然と日本全国のことなんですけど、個別の北区内の具体的な内容を逐次お知らせしていただけるようなものがあったり、それを把握できるような情報収集手段を持っていると、ただ携帯はあるけども、スマホじゃないよというようなことで、今、区の防災課長さんにもご説明いただいたような、ああいった情報をすぐ取れる人と取れない人がいらっしゃるの、そういった点では町会とか、地域の同じマンションの中で隣にどういふ方が住んでいて、どういふ人たちがどういふ状況なのかと把握できている状況なのか。そういうときに声かけは、民生委員の方とか、お一人暮らしの方もいらっしゃるんで、助ける側に回る人と、助けてもらう必要のある人といらっしゃる。どうしても助けなければいけない人の名簿は区でも町会にお知らせがあたりするというのはのですが、助ける側の人たちを隣近所のお宅については、全部は知らなくても隣近所ぐらいの情報が分かれば、いざというときにできるのではないかというお話が経験則でありました。

それから、身近に事前の準備ということであれば、例えば急に土のうの準備がなくても、ビニール袋があれば水のうみたいにできるんですよというようなミニ知識も、何かの機会があればそれを蓄えていくことで改良できるのではないかというお話がありました。

それから、目の前がすぐ学校なのに、地域が違うので違う避難場所へ行きなさいというようなご指示もあるようで、なかなか頭の柔らかい人だと「いいよ」と言ってくれるのですが、厳しくやっぱり人数に制限があるから振られたところというようなことを守ろうとする真面目な日本人の気質なのかもしれませんけど、そういうことできちんとした緊急避難ができないケースもあるんで、臨機応変な対応も必要かなというお話もありました。

それから、近くにそういうもし逃げ込むところでも急な場合には、高齢者のあんしんセンターとか、介護施設みたいなところに避難できるようなお話を事前にその施設の施設長さんにすることができていれば、いざというときにはそういうこともできるんじゃないとか、大きなスーパーなんかだと駐車場もありますので、車が流されている場面をよくテレビで見ますけども、事前にそういったところに避難できるような体制とか協力を、まず地元の町会のほうからストレートにやってもいいんじゃないかと。都のほうにお願いして、役所の口添えがあれば、なお、うまくいくのかもしれませんが、そういったことも事前に備えられるんじゃないかと。

何といっても、事前にしっかり勉強することも大事だということで、なかなか我々

素人では分かりませんが、町会の経験者のお話ですと防災課長さんにお問い合わせすればすぐに勉強会とか、飛んできて訓練とかやってくださるんで、でもそういったことを一度でも経験しておく、いざというときに動きやすいんじゃないかというような話がありました。

マンションだと、どこに誰が住んでいるか分からないそうです。なかなかご提供もいただけないということで、理事長ぐらいは知っていても、ほかの人は分からないとなってしまうので、そういったものを提供、共有できたりする仕組みがうまくできれば、なかなかそれは難しいですけども、お話の中にありました。

皆さんのとにかく熱心な発言もあったのですが、私のまとめができなくてあれですが、そんなような内容です。補足はありますか。

すみません。ありがとうございました。

◎広報課長

どうもありがとうございました。6グループからご発表をいただきました。

それでは、ただいまの発表を受けまして、防災・危機管理課長のほうから、一言ご感想などをお願いいたします。

◎防災・危機管理課長

本当に貴重なご意見をありがとうございました。熱心にご議論をいただいている状況も何となく聞いておりまして、本当に心強くありがたく思った次第です。

まず基本のお話からしましょう。いろんなキーワードを出していただきました。

ハザードマップを確認すること。

情報入手をしっかりとすること。

避難場所までの避難経路をしっかりと確認すること。

近所の方と日頃から水害について、話題にすること。

非常用持ち出し袋をきちんと用意しておくこと。

個別に縁故避難場所を確保。

勝手ながら、私がネーミングさせていただきましたが「高台友達づくり作戦」に取り組んだらどうか。

町会・民生委員による広報・周知をもっとやること。

避難を誘導する地域のリーダーがいると心強い。

自助、自分のことは自分で、そんな心がけが大事だなんてご意見をいただきました。どれも貴重なご意見だと思います。常に心において、忘れないようにしたいです。

次に、課題もいただきました。令和元年台風19号の関連の話もいただきました。あのときは様々な課題が浮き彫りになり、区の対応等により多くの方にご迷惑をおかけしたと思っています。できる限り頑張ったのですが、いっぱい反省があります。経験がなかった、区も経験がなかったというお話もありましたが、そのとおりです。情報発信をはじめ、たくさん課題がありました。

まず一番は、私たちは19号のとき、どう考えたか。今日の説明では、当たり前のように、荒川のときはこうしましょう、石神井川のときはこうしましょうなんてことをスラスラ言いましたけど、そのときは正直に言えば、そんな整理はできていませんでした。実際、区は石神井川と土砂災害の体制で臨みました。区民の皆さんは荒川が

氾濫するのではと思って行動された。だから、そこですごく差があって、混乱したということだったと思っています。

混乱のないようにどうしたらいいか。まず、情報発信をちゃんとしっかりしてくださいよ。そのとおりかと思います。避難場所、早期に開設してください。もっともっとスペースを広げてください。そのとおりだと思います。分かります。

そして、いろんな提言をいただきましたね。こんなことをやったらいいんじゃないかという意見。まず、高台と低地の自治会同士でいざという際に助けてもらえる体制を整えておく、そういうのはいいですね。自治会さんからも実はそういう意見をいただいているので、これからいろいろやり方を考えます。

あと、民泊施設の活用というのは、たしかに国でも、東京都でも、ホテルとか何か使いなさいよというのは言われるんですよ。ただホテルとかは、みんな北区は低いところにあるんですよ。だから、北区は難しいかななんて思っていたのですが、民泊というのはあるかなとちょっと思いました。あと、要支援者名簿といって、助けられる人の名簿は確かにあるんですよ。ただ、助けてあげる人名簿はいいですね、考えてみましょう。

次に、あとは高台に駐車場を確保。いいかもしれませんね。

あと、ごめんなさい、一つだけ。自分は防災課長をやる前に保育課長・保育係長をやっていました。保育園の課長です。水害が起きて、低地部の園の職員からこんな話がありました。それは「子供たちに、水害が来たときに、ライフジャケットを買ってあげたらいいのでは」というものです。そんな状態になってまで保育園をやることないですよ。小さい子供たちです。荒川は氾濫するまで、ある程度時間はかかる河川です。だったら、そんな状況になる前に逃げましょうよという話です。なので、すみません。ボートを備えたり、浮き輪を備えたりといった考えはいろいろなところで耳にするのですが、ただ、それで本当に命が守れるのかなという、難しいと言わざるを得ません。家をなぎ倒すような洪水になるんです。なので、いろいろ正確な情報を持って、万が一に備えて、やっぱり人が犠牲になるのは絶対、嫌ですよ。なので、それを何とか食い止めましょう。

そんな意識で皆さんが話し合いに臨んでくれたことを、とてもとてもうれしく思います。今日はありがとうございました。

◎広報課長

それでは、今の防災・危機管理課長からのことを受けまして、何か質問がある方がいらっしゃいましたら、挙手のほうをお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

◎区政モニター

すみません。先ほど質問したことに関連するのですが、避難場所が北区の小中学校をやっていると思うんですが、北区は小中学校だけではなくて都立の高等学校もあると思うんですが、私たちは赤羽北三丁目の高台にいるんですが、避難しようとしたときに、桐ヶ丘高校がそばにあるのですが、そちらは区民の避難場所にはなっていないで、いざというときには、崖の下にある袋小学校が避難場所になっているというふうに聞いたんです。それはすごく矛盾しているし、都立の高等学校なんかがあるのであ

れば、北区の中には大学もありますけどもね。そういうところも避難場所として活用するようにしていただけると、大きな場所が確保できるのではないかと思いますので、その点、都立とか、それから大学とか、そういう場所が避難場所として考えられているでしょうか。そこを確認したいのですが。

◎防災・危機管理課長

今現在、まず公の施設ですよ。とにかく荒川の氾濫が起きそうなときに、高台の避難場所はとにかく圧倒的に不足しています。なので、区の施設、全部解放しますから、次に国や東京都等公の施設、そういったところに当たっています。ただ、前向きに、もちろんいろいろ話合いには応じてくれているんですが、やはり区を取組を東京都のほうとしてきちんと受けるに当たって、いろいろ慎重な確認を求められているような状況でございます。そんなことで、前向きに話は進められているので、すみません。どういったような形で皆さんに情報を開示するのかということも含めて、いろいろ課題になっていますので、そこはご理解をお願いいたします。

あと、先ほども申し上げたんですが、袋小ですが、荒川の氾濫がありそうなときには、袋小なんかは避難場所にはしません。けど、「荒川の氾濫はないですよ。でも、崖崩れのおそれがありますよ」といったケースはたくさんあると思っています。そういうときには、袋小というのは安全な避難場所にはなると考えており、ケースを分けて考えたいと思っていますので、お願いします。

◎広報課長

よろしいですか。ほかに。

◎区政モニター

すみません。質問じゃなくて、気づいていることで、お伝えしたかったことが1点あるのですが、情報を整理されたということですが、メールを受け取っていて、「コロナの防災無線の内容が変わりました。詳しくはホームページをご覧ください」というメールが来るので、ちょっと何かそれはとんちんかんだと思うので、防災無線で伝えたいと思った内容を、メールで直接流していただいたほうがいいかなと思いました。ご担当じゃなかったら、あれなのですが。

◎防災・危機管理課長

コロナの防災無線については、防災・危機管理課が担当です。

正直、これまではメッセージをメール本文に記載して配信していたと思っています。すみません。ご意見をありがとうございます。確認してみます。

◎広報課長

ほかに。

◎区政モニター

荒川の氾濫は大変なことですから、北区だけで対応するんじゃないと思うのですが、東京全体で広域に布陣をして対応するような、きっと災害になっているんだと思うのですが、もうちょっと北区から広げて、どういう状況が発生して、その上で北区が今一番ベターな選択としてこういうことを考えているんだという、ちょっと視野を広げてお話をさせていただく機会があるといいかなと思っているのですが。

◎防災・危機管理課長

そうですね。やはり北区内だけで避難者の避難先の確保は難しいと思います。都立高校、区内だけでなく区外のものを使ったらよいというのもそのとおりで、例えば、以前に区民の方からいただいた意見では、北区民は地下鉄南北線を利用できるので、東京大学や東京ドームも活用したらといったものもあります。

そういうことで、いろいろ広域的に検討はしています。当然北区だけの課題じゃないですし、高台すらない。いろいろ水害に関しては北区よりも深刻な課題がある区もあって、そういうところとも連携していきます。ご提案をありがとうございます。

◎区政モニター

常設のそういう公的の連絡会議というか、対策会議的なものというのはあるのですか。

◎防災・危機管理課長

あります。やっています。昨日もリモート形式で、他区ともいろいろ意見交換をおこなったところです。

◎広報課長

ほかにご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、会議が始まりまして2時間近くにもなりますので、もしこの後質問があれば、個別にお願いをしたいと思います。

また、本日の討議していただいたテーマ以外でも、ご意見やご質問がある場合には、会議終了後に職員までお声がけいただければと思ってございます。

(事務連絡)

5 . 閉 会

◎広報課長

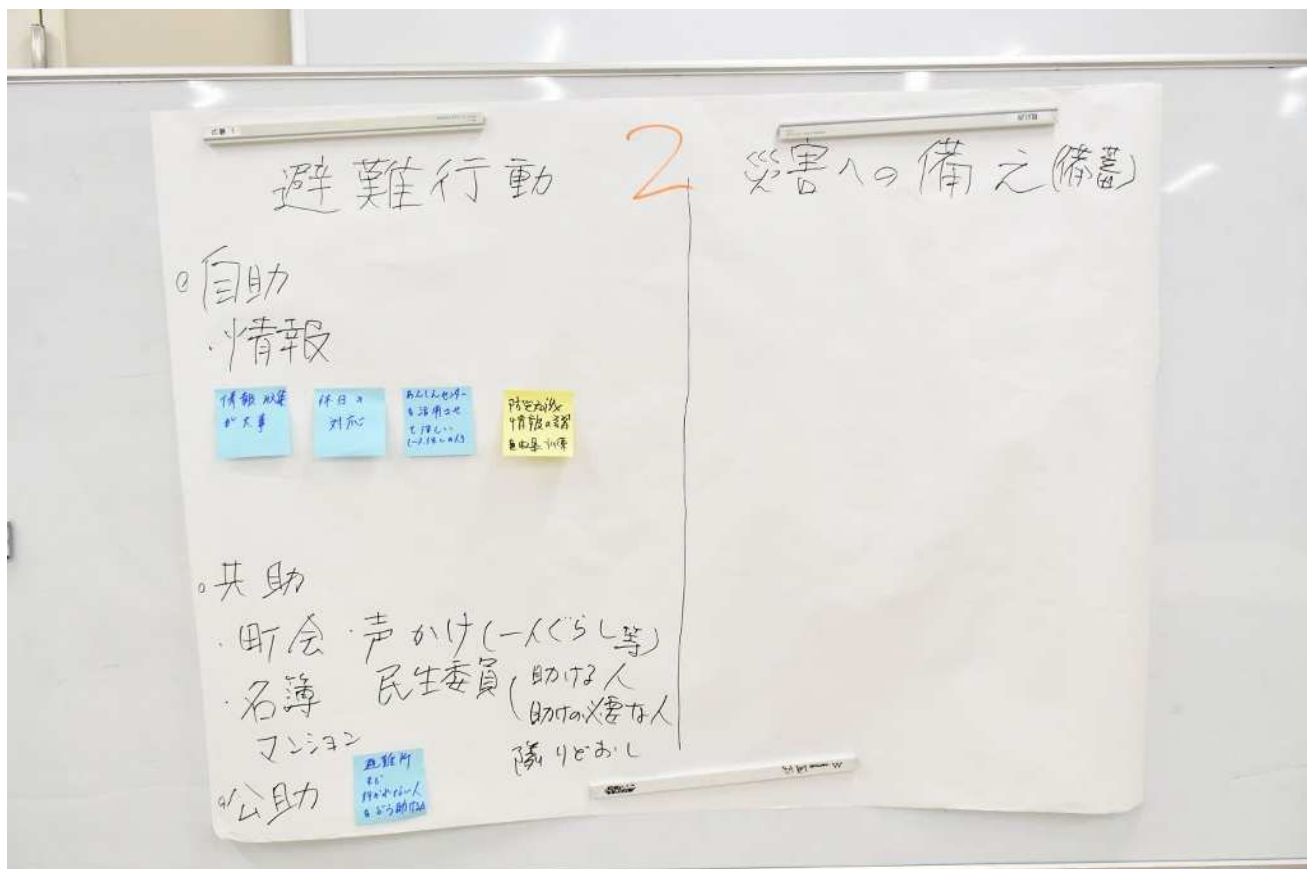
それでは、これをもちまして、令和3年度第1回区政モニター会議を終了させていただきます。皆様、長時間にわたりまして、ありがとうございました。次回もどうぞよろしくお願いいたします。

成果物

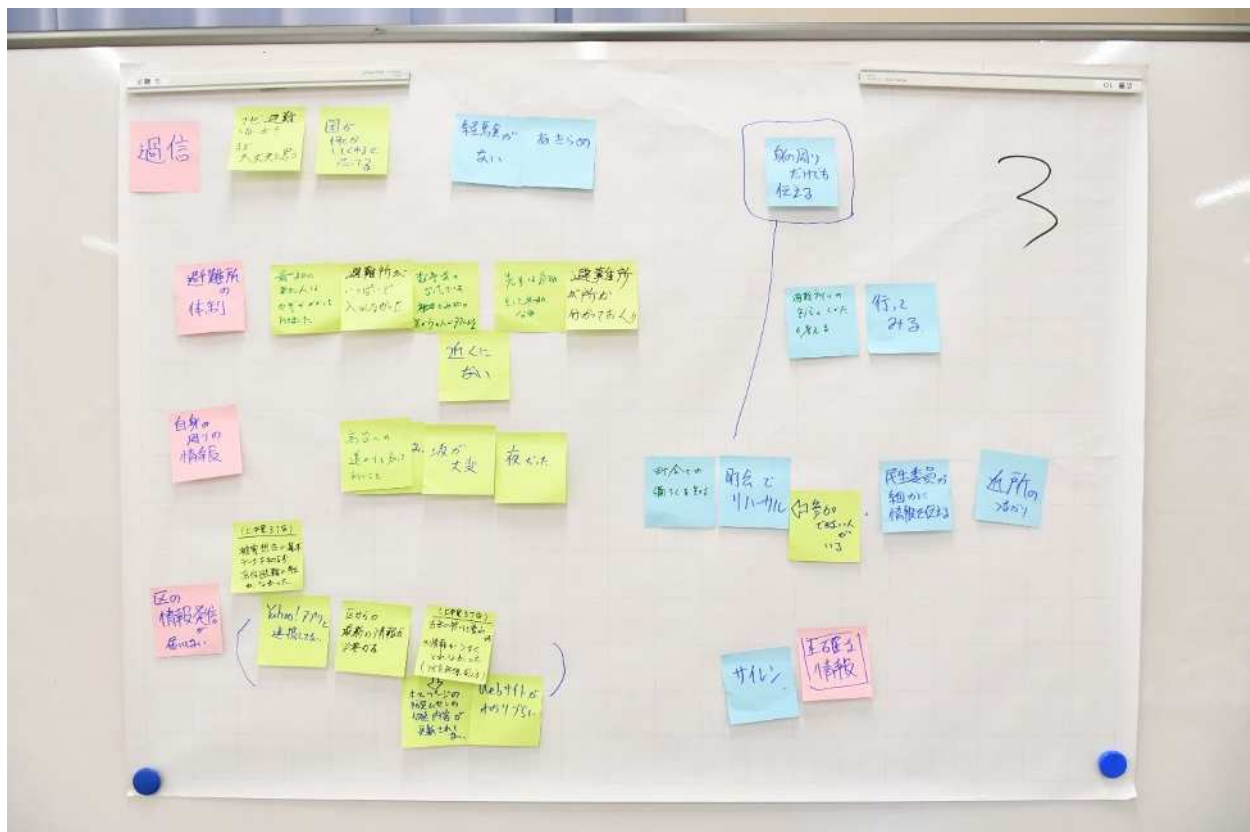
1 班



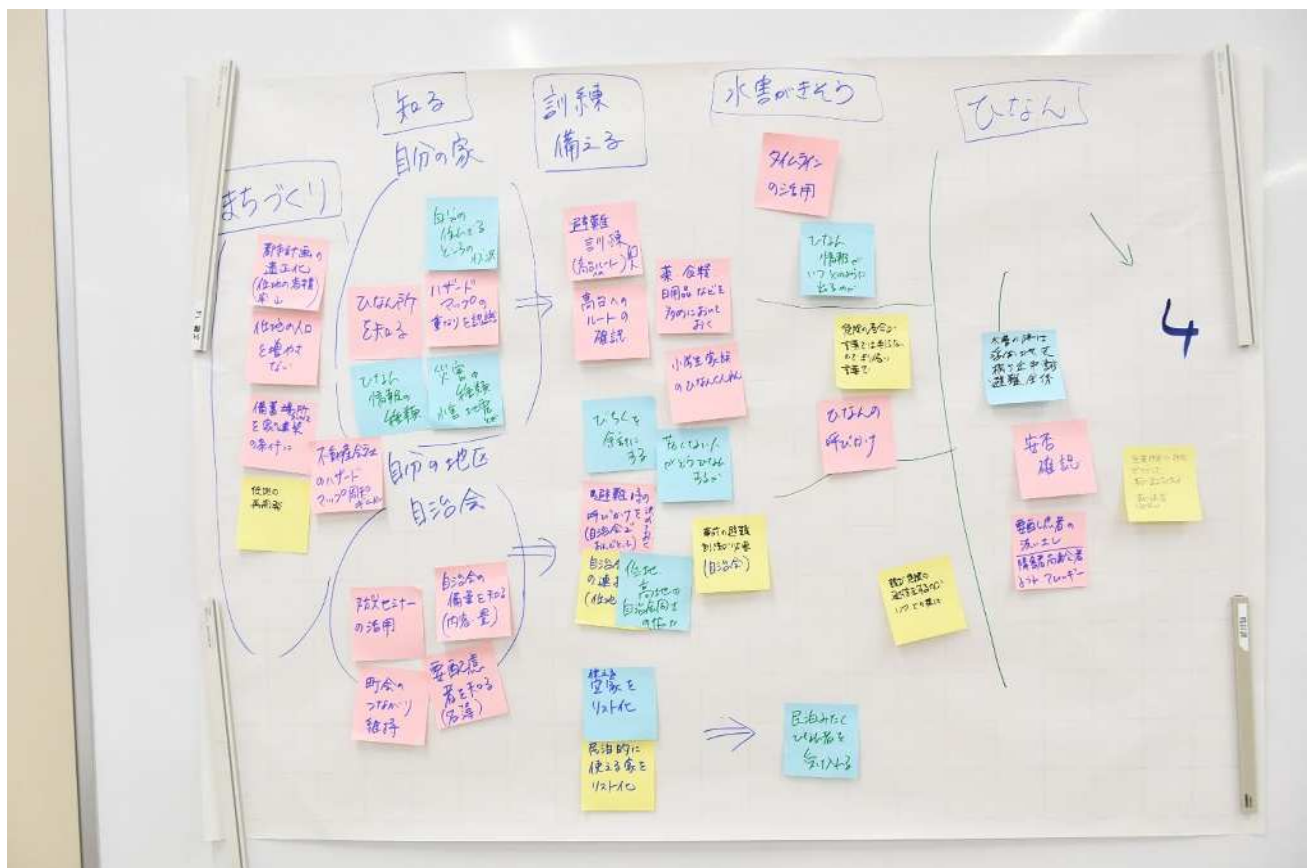
2 班



3 班



4 班



5 班



6 班



令和3年度第1回区政モニター会議議事録
令和3年9月発行

刊行物登録番号 3 - 1 - 0 5 7

発行

東京都北区政策経営部広報課

東京都北区王子本町一丁目15番22号